

## 折り合いをつける力

シンギュラリティという言葉をご存じでしょうか？先日、宇宙物理学者で理学博士でもある神戸大学名誉教授 松田卓也氏の講演を聴く機会がありました。そのテーマになっていた言葉で私は初めて目にした言葉です。講演内容は非常に難しかったのですが、「シンギュラリティとは、AIが人類の知的能力を圧倒的に追い越すこと」だそうです。2045年がその年であるといわれています。例えば、私たちがよく目にしていた証券会社で何人もの証券マンが手で合図を送りながら売買するニュースはもう見なくなりましたよね。

電光掲示板だけが映されるようになっていきます。また、お店のレジも、自分で機械を通し支払うものが多くなってきました。今まで働いていた人の数がめっきり少なくなったように感じます。また、チェスや囲碁の世界ではもう人間はAIには勝てなくなっています。今の小学生が、社会人になるころ、2025年頃には、自動運転の車や電車、バスなどがあたりまえになり、2045年頃には、確実に働き方が変わるといわれています。



社会構造が大きく変わるのであればそれを見据えて教育も変化させていかなければなりません。松田氏は、今後必要となる能力として、

- ①新しい環境に適応できる能力
- ②常に新しいことを学び続ける能力 だといっておられます。

今後の世界は、18世紀の産業革命以来、300年ぶりに激動の時代に入ろうとしています。当然求められる人材も大きく変わってきます。20世紀は、大量生産・大量流通・大量消費といった工業社会を支える人材が求められました。極論を言えば、指示されたことを正確にこなせる知識・能力が必要とされました。しかし、これからは今までの知識や能力だけでは太刀打ちできません。新しい学習指導要領にも、アクティブラーニングという言葉が出てきたように【脱 指示待ち人間】をめざしています。また、今、日本にも、数多くの外国の人が入ってきて英語で話し合いながら一緒に仕事をするようになってきました。異なる習慣・文化・考え方をもった相手をリスペクトしながら物事に対処することが必要となります。今後、目的を達成するために、いわゆる【折り合いをつける力】がますます重要になってくると考えています。

そこで、小学校で今、身に付けさせたい力の一つとして考えてみますと、学級での話し合い場面があります。友達と遊んでいる場面でも考えられます。人数が多ければ多いほど考え方が多様ですから自分の意見を受け入れてもらうには、折り合いをつけることが大切になります。この【折り合いをつける力】を体験的に学ばせていきたいと思えます。

校長 土井 安博